

グローバル COE プログラム 平成20年度採択拠点中間評価 【特に優れている拠点】 概要

【医学系】

F07「歯と骨の分子疾患科学の国際教育研究拠点」

東京医科歯科大学医歯学総合研究科器官システム制御学系専攻

特に人材育成面において、国際 PI シャペロン教員やアドバンスト・I・スーパースチューデントなどユニークなシステムが立ち上がり、世界の著名大学の教員をメンターに採用するなどメンター制度も効率的に活用され、若手研究者育成に大変優れた成果があがっている。

また、毎週 1 回の国際総合プレゼンテーション、海外のトップ研究者を招く海外研究者講演会、国際シンポジウムの開催などが積極的、生産的になされるとともに、海外の先端的研究者による国際外部評価会など、拠点の活動に対する評価システムをうまく構築しており、教育にかなりの努力が払われている。

研究活動においても、世界トップレベルの業績が得られ、基礎的研究の実績のみならず、臨床研究活動も進展している。

運営面では、大学及び拠点リーダーの強いリーダーシップの下で精力的に拠点が運営され、国際化に向けた取組みも盛んで、歯科と医科の融合もうまくなされている。

F09「生命原理の解明を基とする医学研究教育拠点」

京都大学医学研究科医学専攻

研究・教育の両面において、5つの研究領域と6種類のインターフェイス研究領域を組み合わせ、各領域の研究者が一体となって教育研究活動に取り組んでおり、キャリアパスを明確にし、国外の連携研究組織でのインターンシップ・共同研究を展開することで国際化を図るといった斬新な取組みが行われている。

RA や Associate Fellow を積極的に採用し、更に 2 週間から 3 ヶ月の間、海外の研究室に滞在して行う共同研究を双方向的に支援するインターンシップを積極的に取り入れるとともに、英語教育にも積極的に取り組んでおり、若手育成プログラムは十分に機能している。

研究活動面においても、各研究領域から国際的にトップレベルの研究成果が数多く報告され、拠点内での研究協力も順調に行われている。

運営面では、大学の将来構想の根幹である「柔軟な教育・研究体制への取り組み」が本プログラムの趣旨と合致しており、研究担当理事を委員長とした京都大学グローバル COE プログラム推進委員会が設置され、全学的な支援も得られている。

グローバル COE プログラム 平成20年度採択拠点中間評価 【特に優れている拠点】 概要

【数学、物理学、地球科学】

G02「変動地球惑星学の統合教育研究拠点」

東北大学理学研究科地学専攻

構成員が高い意欲を持って拠点をあげて事業に取り組んでいる姿勢が伺え、研究・教育の両面ともにバランスよく順調に進行している。特に国際インターンシップや留学生の受け入れなど、国際化に向けた努力が顕著であり、更に国際高等研究教育機構と連携した運営が適切になされ、学外との連携も進んでおり、外部評価委員会の設置などの努力もされている。

研究活動面では、国際的に評価の高い学術雑誌への論文発表などの成果もあがっており、諸外国にも積極的に情報発信が行われている。

G07「宇宙基礎原理の探求」

名古屋大学理学研究科素粒子宇宙物理学専攻

本拠点の開発した、物理学の広範な基礎知識を獲得するためのプログラムである物理学 Minima は、国際化など多様な人材育成を図る上で必要な教育の質保証を与えるものとして特筆できる。

更に、e-learning の活用、TA を活用した学習支援、ものづくりセミナーなどきめ細かい教育プログラムが用意されているほか、学生へのアンケートによるフィードバックや、RA や留学生の支援方策も充実している。スタッフの努力と大学院教育への情熱が感じられ、結果として教育において相当の成果をあげており、留学生数の増加はその表れである。

研究活動についても十分な成果があがっており、分野間の連携も着実に進み、新しい研究領域が切り開かれる可能性も感じられる。

グローバル COE プログラム 平成20年度採択拠点中間評価 【特に優れている拠点】 概要

【機械、土木、建築、その他工学】

H01「流動ダイナミクス知の融合教育研究世界拠点」

東北大学流体科学研究所

国際ジョイントラボ、流体科学分野横断セミナー、学生が企画・運営する高いレベルの国際会議など、多様な教育プログラムが実施され、それらを用いての研究活動を中心とした指導体制が構築され、若手研究者の論文発表や受賞などの成果に結び付いている。

研究活動面では、世界に配置したリエゾンオフィスを拠点として多数の多国間共同プロジェクトを実施するなど、この分野の国際的拠点として世界的に認識される状況になっている。

また、本拠点が主催する「流動ダイナミクスに関する国際会議」は、この分野の世界レベルの国際会議として定着しつつあり、本拠点とリヨン大学グループが中心となる国際共同研究・教育も実質的な効果をあげており、大学の国際競争力の向上に寄与している。

H03「機械システム・イノベーション国際拠点」

東京大学工学系研究科機械工学専攻

「国際共同研究」、「インターンシップによる海外派遣」、「若手企画による国際ワークショップ」などが実施され、国際的に高い水準の専門知識の習得、競争力の涵養、国際的に活躍できる人材育成が推進されている。更に、異分野連携・融合を基盤とする教育研究指導運営体制が整備され、「連携研究プロジェクト」、「学内教育プログラム」、「国際プログラム」が効果的に推進されている。

研究活動面では、世界を先導する最先端研究活動が行われ、機械システム・イノベーションの定義が示された上で、「拡張機械工学」の基盤となるディシプリンの確立に向けた活動が進められている。

グローバル COE プログラム 平成20年度採択拠点中間評価 【特に優れている拠点】 概要

【社会科学】

I07「社会科学の高度統計・実証分析拠点構築」

一橋大学経済研究所

本拠点で行われているデータベース群の構築においては、「日本産業生産性データベース」、「アジア長期経済統計」、「農家経済調査個票」を始めとして、今後更に拡充が図られる予定であり、着実に整備が進んでいるとともに、これに基づく理論研究も展開されており、優れた成果が見られている。

運営面においては、大学がスペース及び予算を支援しているとともに、事業期間終了後には経済研究所にデータ・アーカイブを中心とした教育研究拠点が構築される予定であり、大学として組織的に支援されている。

更に、大学院の充足率が不足しているという課題に対して、大学の「第2期中期計画」に「大学院教育の質の維持・確保の観点からの入学定員と組織の見直し」を行う旨を明記し、合同作業部会を設置して検討を行うなど、組織としての積極的な対応もなされている。

I10「人間行動と社会経済のダイナミクス」

大阪大学経済学研究科経済学専攻

行動経済学の研究・教育拠点として質の高いプログラムを展開しており、学位取得者数、大学等研究機関への就職者数、学術賞の受賞、査読付き国際誌での論文掲載など、博士後期課程大学院学生の育成面で大きな成果をあげている。

研究活動についても多くの成果をあげており、行動経済学的特性を調べるための日米パネルアンケート調査を利用した研究成果が表れている。

また、本プログラムを支える基礎インフラや支援体制も整っており、国際ネットワークの構築も深化するなど、計画が着実に進展している。

グローバル COE プログラム 平成20年度採択拠点中間評価 【特に優れている拠点】 概要

【学際、複合、新領域】

J03 「環境激変への生態系適応に向けた教育研究」

東北大学生命科学研究科生態システム生命科学専攻

生態系適応科学の体系の確立及び国際共同研究の推進、国内外の研究者との共同作業によるレビュー論文の作成など拠点形成に向けた効果的な取組みがなされている。

また、人材育成面においては、三つの人材養成プログラム（基盤教育、先端研究者育成、生態環境人材プログラム）の整備や生態環境人材（PEM）認定制度の創設など、生態科学の社会への貢献を視野に入れた効果的な教育制度が導入されている。

研究活動面においても国際的な研究の推進・成果の発信、異分野連携による融合研究の計画とそのための基盤整備など、本拠点の目的に則した研究が着実に推進されている。

J05 「学融合に基づく医療システムイノベーション」

東京大学工学系研究科バイオエンジニアリング専攻

医学、工学、薬学の研究者が綿密に計画・立案して組み立てられた教育プログラムが実施され、特に若手研究者にケーススタディを課し、知識ばかりでなく、状況に応じた実践力が養われている。就職先についても、多方面への対応がなされており、国際連携については学生の双方向交流など実質的な効果が得られている。

研究活動面では、ハードとソフト両面から学融合を目指した連携体制が試みられ、研究成果は国際的にも評価されている。

更に、運営面では、学融合教育と学際教育を受け必要単位を取得した者には副学長名で本拠点の修了証を発行するなどの組織的な支援がなされており、拠点内に共通実験室や共通事務室を設置するなど、実質的な協力と連携が可能な体制も整えられている。